



インフルエンザ		かぜ
インフルエンザウイルス	原因	細菌、ウイルス
冬から春に多い	時期	一年を通して
全身症状	病気の始まり	鼻水、くしゃみ
39～40℃	熱	37～38℃くらい
大流行することも	伝染	多くの人にうつらない
手足や腰に強く出る	関節痛	ほとんどない
肺炎、気管支炎、インフルエンザ脳症 など	合併症	安静を守ればひどくならない



インフルエンザは、発症し5日を過ぎて、かつ、熱が下がってから3日を過ぎるまでは、園はお休みします

インフルエンザの季節です。

くしゃみ、咳などの症状の他に、高熱と頭痛が急激に現れたら、インフルエンザの可能性ががあります。潜伏期間が1～3日と短く、感染力が強いので注意が必要です。

症状

インフルエンザは予防接種で重症化を防ぐことができます。

ほけんだより1月号

令和4年度 社会福祉法人栗石保育園
保健室



寒い季節がやってきてあっという間に園庭が雪景色になりました。寒さに負けず元気な子どもたちは、頬を真っ赤にしながらかぜ遊びをしています。岩手県内ではインフルエンザの流行期に入ったとニュースになっています。手洗い・うがいはもとより十分な栄養と休息を取りながらウイルスに負けない強い体を作りましょう。

発熱後の登園基準について

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当園では、解熱後48時間は登園を控えていただいています。この基準は、今後インフルエンザの感染流行も見据えたうえで継続させていただきます。理由は、最初の検査で陰性でも、熱が下がらず2回目の検査で陽性になるケースが多く見られるためです。新型コロナウイルス感染症、インフルエンザどちらも同じ現象が起きています。感染症が発生してしまうのは致し方ないことですが、クラス閉鎖や、休園を避けるためには厳しくせざるおえません。解熱剤を使わない状態で48時間熱が上がらないことを確認してから登園していただきますようご理解とご協力をお願いいたします。



家庭内での感染予防法について

市中では新型コロナウイルス感染症インフルエンザウイルスの流行が見られます。一緒に暮らす家族が感染症を発症した場合、家族全員が濃厚接触することとなり、感染する可能性が高くなってしまいます。

家庭内で感染拡大を防ぐポイントをお知らせします。

- 1 可能であれば部屋を分けましょう。
- 2 感染者だけでなく家族も可能な範囲でマスクの着用をしましょう。2歳未満のお子さんへのマスク着用は、息が詰まるなど危険があるのでやめましょう。2歳以上のお子さんが一人で休んでいる時にマスクをつける必要はありませんが、お世話をするご家族はマスクを必ず着用します。
- 3 看病する人はなるべく一人に限定し、接触リスクを少なくしましょう。看病する人も体温チェックを毎日行いましょう。
- 4 こまめに手を洗いましょう。洗顔や入浴の際タオルやバスタオルの共有は避けましょう。ペーパータオルをつかう、または別々のタオルを使うようにしましょう。歯みがきの共有も避けましょう。
- 5 日中はできるだけ換気をしましょう。
- 6 手のよく触れる手すりやドアノブなどは掃除・消毒しましょう。
- 7 汚れたリネン、衣服を洗濯しましょう。
- 8 ごみは密閉して捨てましょう。

ウイルスは便にも排泄されます。おむつ交換の際には新聞紙をおむつ交換シートの代わりに使用し、ビニール袋に密閉して捨てましょう。その他使用済みマスク鼻をかんだティッシュなども同様です。

